



たくさん たべてね

佐藤 明日菜 早来町立遠浅小学校(3年)

第21回北海道教育美術展奨励賞作品

評 牛にたくさん草をあげているところが上手に表現されています。牛の表情がとてもいいですね。



雨の中のぼく

平 英樹 札幌市立西岡小学校(3年)

第21回北海道教育美術展奨励賞作品

評 雨がふってきて外にとびだしてみたい気持ちがつたわってきます。版の表現の効果を生かしています。

第45回全道造形教育研究大会 いしかり'95千歳大会



P4~5



連盟報100号記念座談会

P6~7



北海道 造形教育 連盟報

No.100 1995.7.20 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒064 札幌市中央区南14条西10丁目

札幌市立山鼻小学校 白井 圀 毅

☎011-511-6616



新しい学力観と造形教育

北海道造形教育連盟委員長

札幌市立伏見小学校長 船着 昭弘

現代社会の特質の一つは、変化と発展の激しいことでもあります。未来社会の変ぼうについては簡単に予測できませんが、現在指導し支援している子供たちに、未来社会で十分能力を発揮し、新しい時代を創造できる力の基礎を身につけさせなければならない責任があると考えます。現在の社会のように、国際化・情報化等が急速に進み、技術革新が高度に発達した社会においては、新しい時代を創造できる能力を育成することが教育に期待されており、造形教育もまたその一翼を担っているといえます。あと数年で21世紀になります。新世紀を我々の手で切り拓いていかなければなりません。

教育では、その対象である子供を実験的に試して業績を上げることは許されませんし、失敗したらやりなおせばよいというものでもありません。教育においては、その全過程が本番であり、教師には細心の注意と慎重さが求められます。子供にとっては、毎日のすべてが発達の過程であることを考えると、子供の成長過程のすべてが自己実現のために100%生かさなければなりません。教育に当たる教師にとっては、それを実現させる責任があります。

平成2年に“新しい学力観”が登場し、これに基づく“豊かな学力”の育成が叫ばれています。新しい学力観の観とは考え方であり、見方、考え方を新しくしたということと特に何かの目新しさを求めることではありません。学力そのものには、新しいものも古いものもないと思いますが、学力を身につける考え方を新しくしようということです。新しい学力観ということばが一人歩きして、“学力の身につけ方を考えよう”という視点がうすれてしまっているのではないと思っています。

今までは、学んだ結果だけを学力としていた傾向があ

りました。学んで得た力だけを学力としていました。しかし、自ら考え、判断し、行動する子の育成を考えると一学ぼうとする力、学ぶ力も学力であるとするを大事にしていかなければなりません。学ぶ力は何かという学び方であり、学び方というのは、ものを考える力、ものを表現する力と言えましょう。今までの学力も大切ですが、子供たちの興味・関心・意欲も学力であるとふまえておく必要があります。そして、学ぶ力が総合されれば、生きて働く力となります。興味・関心・意欲・学ぶ力を全部総合して、それが自己実現に結びつけられるようにしていきたいと考えます。

前委員長の鹿嶋健先生が、「今日、造形教育に求められているものは、生涯にわたって芸術文化に親しみ、心豊かな生活を築くとともに、豊かな感性を培い、柔軟な発想力や想像力、鋭敏な直感力を基盤とした創造性や基礎的な造形能力を育成することである。」と述べておられます。私も全く同感です。特にこの中にある豊かな心を大事にしていかなければなりません。子供たちが絵を描き、ものをつくる営みの中に豊かな人間性がなければ、豊かな表現には結びつかないと考えるからです。これはまた、心の豊かさを広げていくことにもつながっていきます。この意味で、基礎・基本の中には、心の豊かな人間性ということも入れて考えていきたいと思えます。

そのために、一人一人の子供の個性や創造性を伸ばし、その子らしい造形的な創造活動を支援していく授業の展開を図りながら、授業改善につとめることが重要であります。

「豊かな人間形成」を願いとする造形教育の追求をすすめ、新しい時代に即した造形教育の姿を求めつづけていこうと考えます。

平成7年度		役員・本部事務局	
委員長	船着 昭弘	札幌市立伏見小長	事務局長 白井 瓘 毅
副委員長	和田 弘	恵庭市立恵庭中長	事務局次長 佐藤 靖
〃	小杉 信雄	旭川市立神楽岡小長	〃 村谷 利一
〃	伊藤 英明	函館市立銭亀沢中長	〃 香西 富士夫
〃	鍋谷 尊之	別海町立上西春別小長	会計部長 吉田 倭雄
〃	奥野 郁男	札幌市立石山中長	庶務部長 永井 恭子
監査	山宮 喬也	北見市立緑小長	広報部長 毛馬内 國夫
〃	寺本 吉明	芽室町立芽室小長	研究部長 菅原 清貴
			事業部長 小柳 雄嗣

造形教育連盟研究部誌上三二講演会

北海道造形教育連盟研究部

☆造形教育を考えると、対話したいキーワードに部員の思いを綴っていただきました。とも
に答えを探す旅をしましょう。

(研究部長 菅原清貴)

造形とあそび 札幌いなづみ幼稚園 柏木 順

子どものあそびには、子どもの生活全般にわたる極めて広い範囲のものが対象になっています。積み木遊び、粘土遊び、折り紙、描画、ごっこ遊び等々。そのほとんどの遊びの中に、造形要素が含まれており、子どもの自然な遊びと造形は切っても切り離せないものになっています。子ども(特に幼児)にとっては、日常生活のすべてが遊びであり、成長の場であります。まさに、造形は子どもの成長に欠かすことのできないものなのです。

造形ともの・材料 札幌中央小学校 阿部 宏行

私たちはものに囲まれながら生きています。「もの」に触れて心を動かす、「もの」をつくり出すということは、材料(もの)と対話することといえます。自分から働きかけると材料は多くのことを語ってくれます。材料と触れ合う中で、美しさを発見しイメージをふくらませていくことです。「もの」に生命を吹き込むのも、私たちの創造力によるものです。道端の小さな石を顔にみためて飾るという何気ない行為の中に造形の原点があり、「もの」との触れ合いがあります。

造形と環境 札幌宮の森小学校 篠原 寛

「天才モーツァルトは生まれながらにして音楽の環境の中で育った」と言われているように、音楽家の家に生まれた彼は物心つくころから音楽を聞きピアノを習ったそうです。物をつくり出すのも、環境によって大きく影響されます。子どもたちの生活環境に造形心を刺激する物がたくさんあればあるほど、美を感じ、つくりたい、表現したいという心が育つのではないのでしょうか。教室環境に、学校環境に造形心を刺激する物を仕掛け、子ども達の手作りの作品で飾られると素敵ですね。

造形とイメージ 札幌幌西小学校 桜田 豊

「イメージは忘れた頃にやってくる」というのは、とんちんかんだが、突然ひらめくことが多いでしょう。そして、イメージ(表象)は、曖昧なものです。曖昧なものを具体的なものにしていく過程が、創造する醍醐味ともいえます。造形行為の豊かさは、イメージやものの見方、感じ方の豊かさと比例します。子どもたち一人ひとりが、対象(主題・材料・活動等)に向かって主体的に造形活動をするために「イメージする」活動をどのように支援していくか考えていきたいと思えます。

造形とメディア 札幌附属中学校 岡澤 邦彦

メディア(手段・媒体物)として新しく実現可能なものとしてはコンピューターグラフィックがあります。私も

時々挑戦していますが、今のところはプリントするよりも、ディスプレイの画面で見ているほうが綺麗です。技術科では、情報基礎で簡単な図形や絵を描かせているようです。美術科でも作品としての可能性より、発想や技法のための資料として活用できそうです。今までのメディアの中にも新しい発見が続々あり、教材開発は益々おもしろい段階に入ってきています。

造形と個性 札幌明園中学校 角力山 旭

一人一人のものの感じ方・見方・考え方が十分に活かされて、よさや可能性を見い出す造形学習がされています。そして、その持ち味が育てられて、かけがえのない存在として学習を援助し、伸ばしていく時にその学習は「一人一人の個性に応じた主体的で創造的な方向性」をとらえています。「造形と個性」は個性豊かな人間を直接的に育成していくものであり、この営みは、継続的に発達の過程を経て動的に且つ深まっていくよう意図した援助と学習の保証をしていくことが大切です。

造形と技 札幌三角山小学校 菅原 清貴

これまでの絵の具やクレヨンを使わずに、いろいろな素材を組み合わせて絵を表現するとします。新しい素材も多く登場するわけですから、様々な新しい技法が子どもたちから生まれ出るはずです。その時、豊かな発想や柔軟な思考がみられるものです。その表れを見過ぎさない誠実で研ぎ澄まされた教師の感性が必要です。また、子どもが壁を感じた時、その後ろにどっしりと安心できる教師の姿も必要です。『共育』の意味を考え、子と子・子と教師・子と対象の中に熱く流れる技を期待します。

造形と鑑賞 札幌山鼻中学校 小野 泰裕

美しさとよさを感じとれる心、と簡単にいっても、極めて抽象的でとらえどころが難しいものです。おそらくそれは、人間として最も大切な感性全てが関わってくるからでしょう。もとより、学校で学習することがその全てではありませんが、美しいものやよさをすすんで感じとろうとする機会を設定することにより、豊かな心を培う一助になればと思っています。その心は自らの造形表現にも生きてくるでしょうし、生活そのものに潤いをもたらすであろうことを信じています。

★皆さんは、それぞれのテーマに対してどのような思いを抱くでしょう。千歳でそして次の札幌でその答えを見付ける狩人となり、造形教育の振興に努めましょう。

第45回全道造形教育研究大会 いしかり'95 千歳大会

45
CHI 70 SE

開催地 “千歳市・会場校” の紹介

歓迎

水と緑、サケのふるさと千歳の地へ

「千歳」という北海道でも数少ない「和名」の地名が江戸時代に命名され今年190年を迎えます。

それ以前は、支笏湖に名をとどめる「シコツ」と呼ばれていました。

現在の千歳市は、世界を結ぶ空の玄関の街、そして美しい自然に恵まれ、たくましく発展を続ける人の交流と物流の盛んな街です。

会場校のある泉沢向陽台は臨空工業団地の開発と共に新しい住宅団地として拓かれました。

西に樽前山と風不死岳、南に勇払原野、東に臨空工業団地と千歳空港、千歳市街や夕張連峰、そして北に豊かな森や林が広がっております。

向陽台小学校は昭和57年の開校、向陽台中学校は、昭和62年の開校で、地域に根ざす学校をめざして歩んできました。

メイン会場の向陽台小学校は開校以来「花と小鳥と緑の学校」をテーマに子どもたちが中心になって活動してきました。平成5年度から千歳市学校課題研究指定校となり、図工科を取り上げ造形活動を中心に実践研究を推進し、今研究大会に合わせて研究指定校の発表をすることになっています。

また向陽台中学校は石狩管内教育研究会学校課題研究発表校として「表現力の育成」にすぐれた実践成果を挙げた点が認められ、平成4年度石狩管内教育実践奨励表彰の受賞校となりました。



いしかり'95 千歳大会のアピールポイント

1. いしかりの力の結集、を合い言葉に！

第25回江別大会(昭和50年)以来20年間、石狩が組織的に積み上げてきた実践研究を、今回の千歳大会を機会にまとめや整理をしたり、今日的な課題に視点をあてて新たな試みを加え、広がりを見出す取り組みに仕組んで結集を図って参りました。

本研究主題の「豊かな心」と「確かな力」を2日間の大会すべてにちりばめ、輝かせていこうという意気込みを少しでも感じとっていただければ幸いです。

2. 子どもの思いが生き生きと あらわれる授業を！

研究部を中核に、数回にわたる授業研究会や指導案の研修を重ねてきました。子どもとのすべての関わりがあってはじめて題材が生まれ、一人ひとりの思いを造形の営みに展開・発展させていくことが出来るということを学びとりました。

子どもの「夢とよろこび」のひろがる「題材」と、「素材活用の創意・工夫」、「選び」「見立てる」等主体的活動をおおいに盛り込み、それを造形意欲に高める教師の支援と指導の内容をかなり吟味しました。

子どもの成長と発達に沿うことと感性を高め、広がりへの体験をもつことを通して「豊かな心」「確かな力」を育む造形学習に迫るべく授業者・研究部員が、一丸となって取り組んでおります。

全道の皆様との交流でさらに課題解明への手がかりを得ていきたいと願っている次第です。

特に今回、ダイナミックな造形遊びを試行する「学年合同授業」に取り組み公開致します。一つの問題提起として行う合同授業ですので、今後の指導のあり方の研究に役立てていければ有難いと考えています。

3. 音と映像を使った全体会・分科会の提言に！

日程的に内容が盛り沢山の感が致します。限られた時間・空間のなかで少しでも中身の豊かさと濃さを生む工夫としてビデオの映像を活用する努力を加えたところです。



特に新たな機能を取り入れたものではありませんが大会全体の働きの中で意味合いをもたせていければ良いと考えています。

参考になるご意見をいただきたいと思ひます。

4. ちょっとだけ体験(?)したくなる、 チャレンジ工房へ！

フレッシュな造形の基礎体験というふれこみで参加者に楽しんでもらおうという企画です。

5つの工房を用意しました。

マルチメディア、版画印刷、アニメ、アクセサリ、ペーパーの各工房です。なかでもマルチメディア工房は映像の新機種を備え、図工・美術に楽しく活用できる新しい機能を使った体験が出来るものです。

気軽に多勢が参加してくれることを望んでおります。

5. 造形連盟全道各地区の掲示コーナーの設置

造形連盟各地区のネットワーク化構想の手始めとして呼びかけ、全体会場(講堂)の壁面を使用して掲示致します。今回は10地区が参加しますのでそれぞれの特色ある動きや状況を知ることができるように思います。

6. ジョッキー生ビールとティーチャーズバンド のある歓迎レセプションで親善交流を！

キリンビール千歳工場内のガーデンハウスで、収容座席200名です。お互いにおおいに交流を深め合う盛り上がり期待したいと思います。



市内案内図



いしかり'95 千歳大会事務局 (問い合わせ・参加申し込み先)

〒066 千歳市栄町4丁目33
千歳市立千歳中学校
事務局長 吉田 英夫

大会参加費	3,500円
昼食代	750円
レセプション参加費	4,000円
さけのふるさと館の入館料	640円

出席者 伊藤 恵、長谷川 傳、森川 昭夫、佐藤 吉五郎、金井 秀男 司会 広報部

司会 本日はお忙しい中ありがとうございました。現在も社会人、大学生、幼児の教育に携わっておられる意味で「現役」の方々にお集まりいただき、指導の構築が生まれたころの草創期、札幌での全国大会が行われた転換期の様子、これからの造形教育に望むことをお聞かせいただけたなと思います。

伊藤 連盟の発足は、評論社のワーク作りで人がかき集められ、野村さん、新妻さん、和田さん、赤石さん、砂子さんとぼくが参加した。

長谷川 あの時、連盟の考えをまとめ、材料の抵抗など素材について話し合った。

金井 研究らしい研究が始まったのが、30年代だった。連盟の発足は、教育の地方分権の時代で、あのころは、指導要領に拘束されていない時代だったので、各都道府県でそれぞれの教科書作りが盛んだった。連盟は副読本づくりを通して勉強してみようと始まった。そのうち民間の思想、特に「創美」の影響をうけ、それに反応したのが長谷川先生だった。

長谷川 僕が共鳴したのは、子供の発想や考えを大切にしたら、どういうカリキュラムが編成されるかということにひかれたんだ。

金井 創美華やかな時で、週刊朝日の表紙に子供の絵がたくさん載り、現場も影響された。

長谷川 「指導の構築」ができて全道的に授業の体系ができたが、子供はその体系の中に追込まれる結果になった。

金井 このころ教科書会社が宣伝効果をねらい、画家や教育者などを呼んだ。地方啓蒙時代だった。

伊藤 研究会の講演を聞きに来た人が、師範の講堂で写生を行った。授業は附属に行っただけ。指導は偉い人がきて説明したが、みんなさっぱりかけなかったな。

長谷川 僕らがあんまり惨めだったので三和銀行の会議室で裸婦のデッサン会をやってくれた。

金井 今で言えばバザーだね。スポンサーが著名な人を呼んで、それに併せて思想が入って来た。だけど子供ってどうなんだということ科学的に子供を調べてみようということになったのが、能力体系表に入る前だった。指導の構築に入る前に能力体系表があったんだ。

伊藤 その前に連盟の内容的なことではなく、地方の先生を集めて研修会と称し研究発表会を行った。その時「感動源」という言葉でみんなをびっくりさせたのが金井先生だった。

金井 連盟の総会は、研修会であった。午前中は、研究発表だった。

伊藤 全道から研究物をもって来て発表したんだ。「感動源」はよくわからなかったけど（笑い）金井先生の絵にはびっくりした。そのうちにいつの間になくなった。

長谷川 それで基盤を作ろうということになり東書に集まって連盟の考えを煮詰めて言った。

伊藤 それがね指導の構築の前だった。2年くらい続いた。立役者が伊藤将夫さんだった。そして高橋栄吉さんがおだてられてみんなが話していることを次々と表に書いていった。

金井 あれは美学的発想を子供たちがどう獲得していくのかという発達の問題だった。その側面は、教育学的発達ではなく心理的発達だった。それで分析を始めた。その中で伊藤先生がいった「作用」ということが話題になった。どういうふうに物が作られていくかという考え方なんだよね。だから能力表はクラフト的なものから入っていた。

司会 全道から集まり研究発表をしたのは、何年ぐらい続いたのですか。

伊藤 3年か4年程だったと思うけど。

長谷川 夏休み帳などの編集委員会に移行していったために、研究発表したのを評論社が集めることになった。

司会 伊藤将夫先生中心として他にどのようなメンバーでしたか。

伊藤 連盟の研究部全員だった。連盟は人数が20人程しかいなかったんで、全員研究部だった。

森川 室蘭で指導の構築の話したら、分かんないって言われてね。

伊藤 分かんないって言われるとこっちも分からなくなってね。

長谷川 結局、美しさを楽しんでいるような心理的背景から出ていった考え方に一つの体系を作ろうとしたが、形ができあがってしまったら、縛られてしまい、連盟が動けなくなってしまった。

金井 能力表を作った時は分析だった。でも指導は分析でできるはずがなかった。そこで能力を統合して学級経営を基盤として子供のあるべき姿を目標をもって能力表を使いながらどう学習内容を作っていくというのが構築の考えだった。

長谷川 図工連盟が造形連盟になった意図は、造形させ



長谷川氏



金井氏



伊藤氏



森川氏



佐藤氏

るための体系を作る事だった。でも形を作ることに先走り、子供が何を訴えているかが表面に出なくなった。
金井 みんな燃えたことは確かだった。お互いすべてをさらけ出してがんがんに批評した。実践に裏打ちされた実証主義だった。傷ついた人もいた。

司会 指導の構築のころから全国大会までの様子をお聞かせいただきたい。

佐藤 当時図工科に科学的な見方を取り入れて処方せんみたいなものを作って表にした。それが、他教科の先生に図工は特殊な先生がやるんじゃないという意識を生む役割を果たしたと思う。

長谷川 だから、全国大会で一般の先生が授業して全国の先生をあとと言わせようとしたのが39年の大会だった。

佐藤 構築ができて実践の伴った発表をしたことは、当時として非常に大きな成果だった。

金井 経験主義の反動から系統主義が始まってそれにぴったり一致した。それで、指導要領も分析的になってきた。

長谷川 表を送ってと全国各地から随分言われた。あの時、心理的背景を研究していたのが日本心理学会の石井さんと、心理的葛藤の色々なパターンを作って研究していた。でも美術の方ではやっていなかった。

金井 石井先生は、美術教育の特色を取り入れて、児童分析に取り組んでいた。

長谷川 発想源がどのように揺さぶられているのか、自分の皮膚を通じてどのように内面を刺激しているのか、泥んこ遊びの値打ちは何かなどが基本になっていた。

伊藤 感動源って今でも本当だと思う。子供の感動を教師がわきのほうで待っているのではなく、先生が感動することで共鳴するんだ。とにかく先生は、ささいな事にでも感動できる人でなければだめだ。感動する

と意味付けが考えられるということではないかな。意味の発見ができなければ感動は生まれないうらう。

金井 感性の問題を教育的に意味付けて押し付けるのではなく、意味付けて自分の指導というものに発揮させていくことなんだ。今、感性と支援といっている。支援を助言、激励、効果的指示などといっているが、支援の中にある教育的課題が本当の意味での支援なんだ。だから、教師が課題をもたないと子供は伸びるはずがない。教師の資質として、共感と共鳴が必要だ。それを思想として自分に位置づけられる力がないと他人の借り物になってしまう。思想だけに頼らずいつも共感と共感を探りながら自分の物の考え方を変えていく努力をしないと、子供を変えることはできない。大人が作った定規で子供を操作してきたんだが、物を造ることの原点を探ることが大切であり、そこに必要なのが感性なんだ。もっと大きな意味で構築が始まらなければならない時期なんだ。

長谷川 新能力体系表をつくる時期だね。他教科を支えるためという発想に立って、発見して感動する、それをどう伝えるかという伝達の好き嫌いという能力を育てるべきだね。

伊藤 孫の姿を見て思ったんだけど、子供って先生が感動すると感動しなくちゃと言う気持ちにさせられるのではないかな。

佐藤 感動すると気持ちが動く。すると物の見方、考え方が少し変化する。でも、一斉に感動するわけではなく、感動の仕方も違う。子供たちが困っているのは変化の混乱というか毎日に変化している。だから、今はやっていることと文化の継承をどう取り込むのかで見分ける目を将来に向けて育てることを考えると、本物に接する機会を多くしてあげることが大切だ。(つづく)

第22回 北海道教育美術展

北海道教育美術展は、入選した子どもと父母はもちろん、多くの人が鑑賞に訪れます。子どもたちのつくりだす夢や願いや感動がこめられた作品を指導の参考資料にとカメラ持参で訪れる先生も年々多くなっています。北海道の美術教育の方向を示すイベントとして定着しています。

また、新しい表現の作品についても検討され、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。

応募〆切 平成7年12月16日(土)
送付先 〒064 札幌市中央区南18条西15丁目

問い合わせ 札幌市立白石小学校 田口 和男 ☎011-861-9265

会期 平成8年1月11日(木)～16日(火)

- ・積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと。
- ・接着が強固ではがれないこと。
- ・画紙で展示が可能な重量であること。

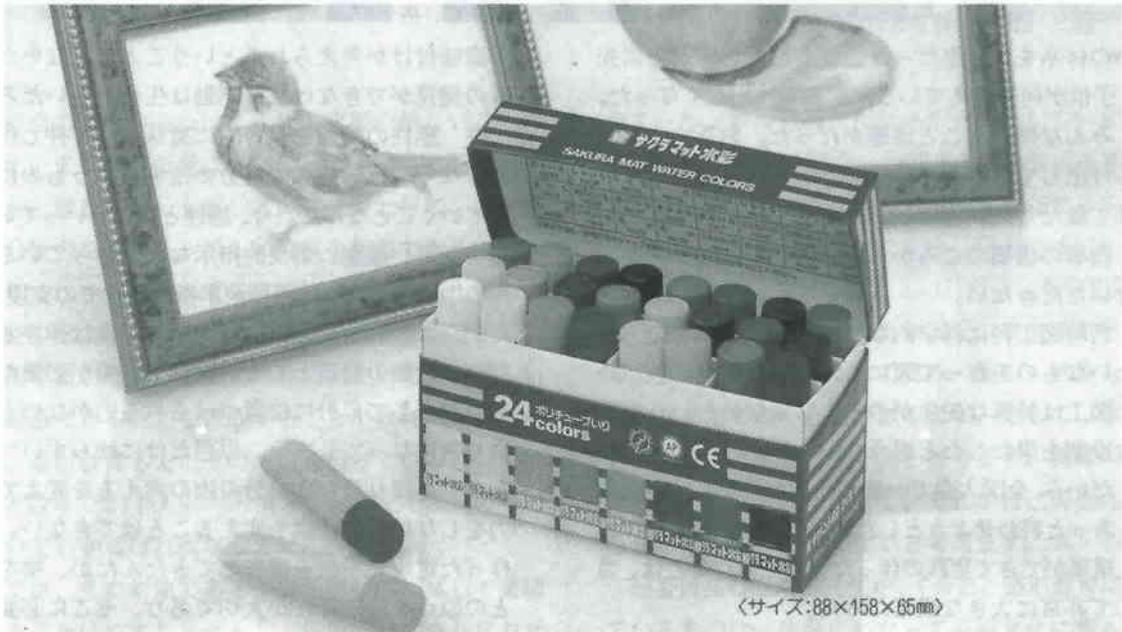
子どもたちの声が聞こえてくるような作品を期待しています。また、日常の学習で取り組まれた作品を多数応募くださいますよう、ご案内申し上げます。

審査 奨励賞100点、入選700点
札幌市立伏見小学校内 ☎011-551-2771
北海道教育美術展係宛



サクラマット水彩 24色(12ml)ポリチューブ入

使いやすく、安心なポリチューブ入りです。



〈サイズ:88×158×65mm〉

特 長

- 使いやすいポリチューブに入ったマット水彩絵の具は厚くぬると不透明調、うすくぬると透明調の絵が楽しめます。
- マット水彩絵の具は、粒子が細かく、練りが均一ですから、のびがよく、混色、重色も容易で、変退色もしにくくなっています。
- パッケージはコンパクトで丈夫な貼り箱仕様です。
- マット水彩絵の具は、日本・アメリカ・ヨーロッパの厳しい基準をクリアしており安心してお使いいただけます。
(JIS・AP・CEの各マークを表示しております。)

※同シリーズで他には12色・15色・18色がございます。

- サクラ マット水彩12色(12ml)ポリチューブ入
EMW12PT
¥1,000



- サクラ マット水彩15色(12ml)ポリチューブ入
EMW15PT
¥1,300



- サクラ マット水彩18色(12ml)ポリチューブ入
EMW18PT
¥1,650



商 品 名	型 号	品 番	JANコード	小売価格	包装単位	個入数
サクラ マット水彩24色(12ml)ポリチューブ入	EMW24PT	824120	4901881 824128	2,000円	3コ	24コ

(税別)



株式会社 **サクラクレパス**

札幌営業所 (011)563-5161(代) 札幌市中央区南4条西13丁目1-26

あ と が き

100号記念座談会はしだいに当時を彷彿させる熱気につつまれ、予定の時間はまたたく間に過ぎてしまった。紙面も増ページでしのぎました。縮めたところは意を汲んでください。VTR記録にとれたことは貴重です。

坂木 武(幌南小) 益村 豊(山鼻南小) 今 裕子(真駒内緑小) 伊藤 尚(米里中) 毛馬内國夫(桑園小)

連盟報100号記念座談会(つづき)

1995. 6. 19

出席者 伊藤恵, 長谷川傳, 森川昭夫, 佐藤吉五郎, 金井秀男 司会 広報部

佐藤：アートと言うのは本来造形性だからね。造形性を養うということであれば鑑賞が大事だね。本物を見せるということをやすべきだなあ。

森川：聞いた話しかれど学生が「先生どこで感動したらいいんですか。」と聞いたというんだね。その先生怒っちゃってね。「あんたもう先生やったらだめ。」と厳しく。結局そういう学生が増えてきているのね。ぼくはね、「子どもの作品に感動の声をあげれる人は図工の先生になれる。」「紙がクシャクシャになっているのをみても感動する先生になりなさい。」というんです。幼稚園の先生で素敵な先生と素敵でない先生とはっきり分かれるのは感動するか感動しないかなんですよね。感動しない先生はね。いつも、「こうやれ。」と言って。ところがね、感動する先生は「今日こんなことあったんだよ。こんなことまでやったんだから。すごい。」と子どもから出発してるんだね。いつも。自分が子どもより偉いとおもって子どもをおさえつけようとするのと反対に一緒に感動しているクラスはのびのびしている。それが、大事でないかな。「子どもから生まれたものはどんなものでも感動しないとだめだよ。」と学生には言う。倉橋総三は「床に転がって手足をバタバタさせるくらい感動しないとだめ。」子どもの作品をみてそれくらい感動しなさい。「君たちできるかい。」と言った。すごい人だね。

長谷川：子どもの好き嫌いをはっきりさせて、のびのびやらせると、そういう手足をバタバタさせるような感動がでてくるんだ。教育と称して手を添え歩かせるようなことばかりやっていると、感動なんかできないよ。

佐藤：さっき伊藤先生がお孫さんを水族館へ連れて行って「わあ。」と感動した話しかれど、伊藤先生と行ったから感動したんだよ。好きな人と行ったからなんだよね。「僕の大好きな人」がいるから感動する。担任もそうなんだ、受け持ちが好きであれば、感動も怒りもでてくるわけ、結局は先生の間性というか先生の愛情の深さというかね。

金井：学校教育の一番のネックは時間なんだは、制約された時間そこが一番大変なのよ、これからは質的に濃くなってくるのよ。だって学校五日制でしょ。その中で造形教育をやることはどんなことなのかを考える。で、宮城まりこの「ねむの木学園」では一人ひとりの表現の仕方は時間は違うんだ。その時間を保障してやっている。だからどの子もきちんとかける。ところが、学校教育は時間が制約されている。ここの解決がなかなか難しい。学校教育はきっかけを与えるにすぎないと考えればよい。それには、まずもうちょっと小さなミニ教材というものをいろんな形で用意して、子どもがそれにふれていくきっかけをたくさんつくってあげることだと思ふな。結果ではなくてそれをどう造形的に構造化できるかということね。さきほど長谷川先生がうまいこといったね。視点をかえること、能力表の視点をかえなければいけない。今までは内容視点の能力ではなかったか。そうではなくてもっと行動の視点で造形教育をとりあげたらどうだろう。もっと五感に焦点をあてながらどういう教材がもっとこどもの行動の引き金になるかと言ってるんじゃないかと思う。ぼくは非常に大事なことだと思う。それと、愛情の問題というのは人間化の問題なんだ。教師は課題をあたえる機械ではないのだ。子どもと一緒につくっていく。だけど、教師はそれを一つの意味体系として作り上げるプロなんだ。だから、いい機会を与えたい、いい場所をあたえたいと考える。今、環境教育が幼稚園から言われて

いる。どういう環境をどういう形で提供できるか用意していかなければいけない。だから教師は幅広い社会的営みに参加しながら考えていかないと。今のように社会的にひ弱じゃなく・・人間としての生涯教育という形にすすんでいかないと。そういうことを語り合うセッションがこれから大事になっていく。造形連盟で大事なものは人間を知り合う会なんだは。そこで互いに高め合ったり深めたり暖めたりする。そういう連盟でなけりゃいけないと思う。ずっと過去を考えて、よかったなと思うのは本音を出してやったことがいい思いでになっている。いろんな連盟のテーマなどをつくる時考えてほしいのは自分たちの言葉でつくってほしいということ。どこかのかりものでなく、よしんばそれをよしとしても、それを哲学的に深めてほしいんだは。でないとどうかんがえてもコンビニからもってきたものにしかないんだな。

佐藤：昔、東書の寮でね、栄吉さんとかみんなやっていたよね。あのころはしょっちゅうけんかしてたよね。あれはね。研修して、主張して、盗みあってたけど、結局はいい仲間づくりになっていた。よそから見るとちょっと特殊な人間みたいに見えるかもしれないけれど、それがよかった。みんな学級や学年という背景があり、そこで言ったことを実践するわけ、すると学校の中に広まって行く。そういう仲間づくりという側面が非常に大きいね。前は遅くまでやれたやれたし、ものをするときパッとやれた訳ですよ。そういう基盤があったからできた。今は時間や場所も制約されて・・

長谷川：時間が伸びても（何も言われなかった～金井）家へ帰っても叱られなかった。今叱られる。（笑い）そんなくだらないことしゃべってないで帰んなさいとか・・ぼくら連盟の会合というのは■■■■■■■■■■と考えると集まれたからよかった。先輩後輩もない。仲間だ。だから考え方を出し合って生き方を確かめ合えるって言うかな。今なら教師という職業にしばられてみじめだよ。ぼくら、連盟の会合ったらやりあったけど、「今度栄吉さんやつけてやろう」とか、「ぼくは、あんな風に感動しない」とかね。お互いに考えて「直列思考だ長谷川は」とか。（笑い）すると「それは並列思考だ」・・・（やりあって、ずっとここで「頭」考えてるわけさ。～佐藤）

伊藤：今考えた事なんだけど「しらける」というのあるよね。あれをを考えてみる必要があるね。しらけると言うのは感動をわざと自分から避けて通るんだよ。感動しないように努めているんだよ。つまり無視する。意味を考えようとしないうし考えようとする自分をまた押さえてしまう。自制して根性悪く脇の方へそれていく。それがしらけるという状況でないかと思う。さっきの鑑賞というのが出てたでしょう。だれだれの絵を見たときにこの絵はこういうところがいいだとか、悪いんだとか頭からおしえるんだよ。これは、テストが受からないと困るものだから。先人はこの絵についてこう言っていると何か条か教えちゃう。習った頭のいい子は「これこれ」でとみんな覚えちゃう。感動するかしないかは別の次元なんだ。鑑賞にそういう形だけが残るなら鑑賞なんて必要ないんだ。いいものを見せるなら見せて、子どもが“どこがすばらしい”と思えなきゃ困る。

佐藤：そうなの、あの近代美術館などに来るしょ。そしたら、さすが一杯になるんだよ。その中でいっぱい固まっている。仲間同士で見たことのある絵を解説しているのがいる。あれなんかは知っていることだけなんだよ。感動とは違うんだよ。「おれは、みんながいいというけれどこっちがいい。」という選択。それが無い。（本当は知っていれば感動するはずなんだけど～伊藤）

金井：本当の意味では鑑賞は美術教育の知的な仕事なんだよ。なぜなら、言葉を媒介にしないで色と形だけでやるというのはすごく知的な仕事なんだよ。だから、言葉の発達してきた高学年と中学生になるにしたがって取り組む。一人ひとりがものを見て問題を見つけていくという言わば問題解

決なんだ。それに教師は共感しなければいけない。問題解決という言葉は誤解を受けるかもしれないけれど、より積極的な問題解決としてもっと強調していいと思う。

長谷川：教育ということを考えないで教育するという発想なんでしょう。それが、「何をしたいのかな。」と考えると、オス、メスのあり方を考える。学校教育ではほんの少しか取り上げないから、人間同士と言う考え方。生きるか死ぬかという教育。感動するのは生きているからなんだ。学校には生き生きしているのもいるけど、みんなのために学校はあるんだから、みんなが生き生きと蘇る魂の復活を願うね。

佐藤：船なら船をつくらせると三人なら三人みんな違う訳でしょ。表現の母体が一人ひとりある訳でしょう。受け持ちはそれぞれの子の母体を知らないでいるとね、えらい結果主義になるんでないかな。造形教育で科学的指導の構築をやっていくとき指導者は母体になっているものをつかんでいないといけない。それ無しにいいとか悪いとかへんな助言をしたりする。やさしさという母体のある子はやさしいものをつくる。好奇心のかたまりの子はそこを中心に表現する。そこを見極めることだ。

長谷川：それを見極めるために、国・算・社・理・・・という分け方をやめて一年生は先生や友達と一カ月つきあう。一人ひとりの子どもの魂と触れ合う。「船霊」さまの影響なんだ。船霊が一人ひとり違っているのに同じことをやらせるというのは全く不合理なんだ。

金井：幼稚園では自由交流をかなり多くやらせているのはそういうことなんだ。表現には行動化しなさいという。行動には体験が必要で、体験は教育と言わない。活動という。体験は教育しちゃいけない。その体験活動の場を与えないといけない。この活動は広い意味の教育と言っている。それをすぐ教育にするから、あれをやっちゃいけないという規制をしてしまう。海へいったらパーッとさわって「ああ、しょっぱい」という子をつくらなきゃいけない。

もう一つ言いたいのは。こういう世の中だから“核”になるのは大江健三郎が言っている「品性」の教育だね。これからの日本は品性のいいものでないと世界から軽蔑されるんだ。物ができたからといって尊敬されない。人間的品性がプラスされないとね。今の子どもには多くのすぐれた人がいる品性が高い方に向かってく方向づけが必要なこと。感覚的に言葉の善し悪しが分かって来るような。これは大きな意味で、学校教育の柱になる。

長谷川：カリキュラムというのはそういうものをそれぞれに発揮させるためにあるのであって、教科を教えるのではない。いい音をつくっている先生、いい色を出している先生、おもしろい粘土をやっている先生・・・いろいろいて、そこへ行って分化していくのは自分の感性がひきつけられるところ。そういう構成が一年生の中にできるとすれば、それがだんだんいいものに育って大江さんの言う「品格」の高まりにむすびつく。いい音を追い詰めて「光」の音楽もできていった。そういうものを日本はあまりに粗末に扱い過ぎた。熱中して大江さんの文学一本でいく「大江教室」。そういうものが文部省に対する大きな刺激にならなければいけない。8教科というのは、八又の大蛇でそのどこの口から酒をのんでも酔っ払わなきゃいけないのに、八つの瓶全部飲んでようやく酔っ払うという日本の教育は違うでないかな。一つの口から飲んだだけでいい気持ちに酔っ払うという育ちを少しでも多く子どもの世界に取り入れてやる。学校の匂いや感触がいつまでも残る、そういう生涯教育に・

佐藤：教育は感動することと表現することしかない。どう順調に表現するか、素直に感動するか、それを掘り起こす。環境を整え、援助する。その子なりの表現の違いがわかっている教師が大切。

長谷川：好きも嫌いも育てられる学校。そういう中で生きる喜びを育てる。生きている実感は親と居るとき以外にない。

司会：最後にお一人ずつこれからの造形教育を担っていく人にお言葉をお願いします。

森川：日曜美術館を見ているとしらけてくる。期待をもって見ているのに、解説や話ばかりでなかなか絵が見られない。鑑賞の仕方は個々に違うんだから、ある程度の知識は必要かもしれないが。図画工作の特色。なぜ感動するかというと自然とともに体験をしていくというこの教科の大きな意味。つまり手を通して分かっていく＝頭が解決していく。その手が人間らしくしている。他の教科と違うのは、内からでてくるもの心の中からでてくるものを大切にしている教科だということ。美しさを求める音楽も外から与える。図工の教科書は子どもの作品ばかりですよ。心の中から創造的に人間をつくる教科は図工しかないね。

金井：これからのテーマは心を広げ、文化に遊ぶということ。今起きている問題の選択肢は二つある。広いものをやるのか、狭いものを奥深くやるかということ。広いものをやっても狭いものに関心を忘れないという姿勢を貫かなきゃいけない。そして、いつも「これはいいかな」という慄きを持たなきゃ。信念はいらぬ。あの人は「絵ばかり」「工作ばかり」、それでいいじゃないかな。それは広いものが見えるための方法としてやっているんだ。少年期のこんな短い時期なんだもの。いねを刈るだけでやってきた民族。森の中だけに居て広い世界が見えた大江健三郎。そういうものを大事にしていく。だからどこでも子どもがも育って行くのはそういうものから得られたんではないか。

伊藤：また孫の話だけれど、一歳半ぐらいの時に白は白、黒は黒と碁石を片付けるのを覚えた。ぼくは、どうして混ぜないのかわざと黒い石を白い方に持って行ってきいた。すると「違う」と言うんだ。そこまではよかったんだが、こんどは孫が同じようにやって僕に聞くんだ。詰まらないことをテストしたらだめなんだ。くだらないことをテストしたらくだらないことしか覚えぬい。

佐藤：幼稚園に遊びのコーナーがある。そこに造形材料として新聞紙も畳んで置いてある。穴をあけたり着たりするだろうと思っていたら。へんなのがいて、いつも脇にかためてもってあるんだ。毎日集めていくんだ。ところがあるとき、ブロックを体育館で並べて遊んでいると、ブロックを縦に重ねてその上に新聞を乗せて揺すって倒して、おもしろくてまた積むというのをやった。次に粘土で何かを造ろうという、まるめて重ねて積むのにこだわっている。一人ずつの表現の母体を大事にということをお教えているんだ。活動にえらい参加している訳。それで今日はすごいを見た、初めて見たといって感動すると、またやる気になる。学校の中であんたのおかげでよかった助かったという場面をぜひつくってもらいたい。

長谷川：3才児と刑務所の人とつきあって考えるのは、作られたものを大事に見ることしか言わぬい。3才児にはすごい、いい色だなあと言ってローマ字でサインしてやる。親子の作品を2枚ずつ並べて貼っていく。子どもにどれが好きと聞くと、あんなのいやだと言う。お母さんに聞くと、わが子のののがいいという。本当はどれと聞くとこっちと言う。それでいいんですといってあげる。

「好き」だけ一生懸命やっていけば、嫌いは言う必要がないんだということ。刑務所の人に入れ墨をしている人がいる。いいねといって触ってあげる。自分のが一番いいと思っているから対話できていく。好きを鋭くする。それしかない。図工は他の教科と違っていいところを認めていけばいい。

司会：今日は示唆にとんだお話をたくさん聞かせていただきありがとうございました。わたしたちの課題もいろいろと見えてきたように思います。お話していただいたこと全部を掲載することは不可能ですが、できるだけ意のあるところを読み取ってでいただけるように編集させていただきます。また、機会をみてご寄稿をお願いいたします。ますますお元気でご活躍ください。